

本から学んだ 人生論

LEARNED FROM THE BOOK - THEORY OF LIFE

佐藤秀雄 スタイリッシュグループ代表

田中角栄の魅力

義理や人情、本当の優しさ、そして、大将の器について深く考えさせられた。

故田中角栄元首相。私はこの人を人間学の神様だと思っている。

人生の酸いも甘いも知り尽くした、その人心掌握力や、カリスマ性に私は限りない魅力を感じ、関連する本を読み漁った時期がある。

なかでも角栄氏に23年間秘書して仕えた早坂茂三氏の著書は、私の人格形成に大きな影響を与え、今でもバイブルとなっている。

角栄元首相をはじめ、頂点を極めた人間たちの物語を読むことで、義理や人情、本当の優しさ、そして、大将の器について深く考えさせられた。

私が人間観に大きな影響を受けた大好きな話を私なりの解釈もまじえ紹介しよう……。

「約束したら、必ず果たせ。できない約束はするな。貸した金は忘れなさい。借りた金は絶対に忘れるな……。人の嫌がることを進んでやる。他人のために汗を流すことだ。泥をかぶり、逃げない。かぶった泥がかわいたら、よそ様に迷惑をかけないように隅で静かに叩いて落とすことだ。手柄は先輩や仲間先に譲つたらいい。損して得をとれ。知人にあつたら、腰をかかめて、「お陰様でなんとかやらせていただいております」とニッコリ挨拶する。世話になつた人、義理のある人には時候の挨拶をマメにやることだ。どんなことでも丁寧



▲故田中角栄元首相と秘書の早坂茂三氏

せた。損得で近づく連中とは人種が違ったのだ。晩年、入内島氏は人生を振り返ってこう語った。「俺は田中角栄という友を持って幸せだった。彼を見て自分も発奮した。ああいう男と人生を共有できたのは、人生最大の幸せだった。この世に思い残すことはない。」真の友情。そして、お互いを深いところで尊敬しあつた2人だからこそこの言葉だろう……。

私は友の窮地を聞く度に、この話を思い出す。時に私自身も、悩み苦境の時に友と酒を飲む。気心の知れた仲間と酒を飲む。たわいのない話で盛り上がる。そんな時間は格別な良い時間だ。困った時の友が真の友。これは真実だと思う。私自身、何度も友に救われている。

あなたには、そんな友が何人いますか？

にきちんと片付けることだ。人生は些細なこと連続である。何でもいい。何かのエキスパートになる。どんな些細な事でも全力投球する。人の百倍の汗を流し、人より知恵を働かせれば、いつか頭角を現わす時が来る。必ず来る。」

凄いな！この考え方。類稀なる忍耐力と大きな人生観のなせる技だろう。私はこの語りを何度も読み返した。短い文章の中に、人生の苦さをなめ尽くし、はいすり回ってきた人間だけが持つ、重さと温かさが垣間見える。

この忍耐力は角栄氏が生まれ育った雪国の風土から来ているのかも知れない。新潟は冬、豪雪が降る。昔は陸の孤島だった。山頂を目指していたら吹雪がやってきた。そのまま進めば迷って谷に落ちるかもしれない。そうしたら雪の中うすくまっつて、穴を掘って、暖をとりながら吹雪が通り過ぎるのを待つしかない。ひたすら待つ。耐えるしかない。忍ぶ。吹雪がやんで、青空が広がったら、歩き始める。人間は所詮、自然に勝てるものではない。角栄氏は育った風土の中で耐えることを体得したのでしよう……。

角栄氏は、39歳で郵政大臣になった。そして今太閤、小学校卒の庶民派総理。コンピューター

天才と称された角栄。しかし、その陰の努力は凄かった……。夜は9時になると寝てしまう。しかし、夜中の12時ごろに起き、資料や本を読み込む。大事な手紙を書く。メモを整理する。それから、国会便覧に目を通し、地図を広げ各選挙区の地勢や状況を入れて、また床に就く。朝は6時には起き、新聞を読む。読み終えると、早朝から必要な電話をかける。7時には仕事をあらかた済ましている。これが日課だったそうだ。やはり、天才と呼ばれる人は、並々ならぬ努力を怠らない。

先般、足利選出の茂木大臣がCOMPANY?のインタビューの中で「休みもなく、早朝から深夜までの過密スケジュールで、体調が悪くなつたらどうされるんですか？」との問いに「悪くなくても関係ないです。点滴しながらでもやります。」と答えていた。大臣という職務の激務が伝わってくる。やはり、一代で名を成す人の努力は凄い。たった一言に気迫を感じさせられてしまった。

……田中角栄という人は、人の顔を見れば、「おい、メシは食ったか」と言っていたそうだ。口癖である。この言葉は角栄の体験が発した言葉だ。すきつ腹のつらさ、切なさを知っていたからである。貧しい家に育ち、土方仕事から成り上がった叩き上げの苦勞人だからこそこの言葉だろう。

「土方と言つのは、でっかい芸術家なんだ……。」

付きブルドーザー、キングメーカーと呼ばれ、日中国交正常化や議員立法を多数うちたて、名声を欲しいままにしたが、その後、一転ロッキード事件を境に刑事被告人となり金権政治家と汚名を浴びることになる。功罪3:7。世間的な評価はそんなところだろう。しかし、刑事被告人となつた後も、票を集め「自白の閣將軍」と呼ばれ日本を動かした！角栄氏にかかわる人達が窮地の彼を支えつづけたのだ。これは彼が人を大切にしていたからだろう。もちろん、本人にとつては耐えがたい屈辱の時期だったがに違いない。この窮地にこんなことも語っている……。

「困った時の友達が本当の友だ。力を貸してほしいときに、夜中でも電話をかけられる。明け方、駆けつけて飛び込んでいける家。カアちゃんもよく心得ていて「さあ、どうぞ」と言ってくれる友達3人いれば、この世は、やっていける。人生は照る日、曇る日、嵐の日の繰り返しだけど、心ある人はいつも変わらない。こういう友こそ、真の宝物だ！」

実際に角栄氏がロッキード裁判で刑事被告人になつた時も、派閥内で内紛が勃発した時も秘書の早坂氏は支えつづけた。刎頸の友、入内島氏は、角栄が順風満帆の時は、あまり寄り付かなかった。しかし、窮地になると頻りに顔を

俺たちは汗水たらして、この地球の上に彫刻を刻み込んでいるんだ」この言葉を胸に、角栄は19歳で土木会社を立ち上げた。世間的には、尋常小学校卒と言われているが、働き出してから東京にある中央工学校の夜学にも通った。建築、土木の勉強のためだ。ここは私の母校でもある。実は卒業して何年も後に知つたのだが、尊敬していた田中角栄氏と同じ出身校だったのが嬉しかった……。

早坂茂三氏の著書には、「人間！田中角栄」が余すことなく現されている。お行儀の良い、立て前だけで生きていたら知りえない世界を教えてくれる。「親の意見と冷酒は、後になるほどきいてくる」そんな本です。あなたも是非「角栄節」に酔いしれて下さい。



佐藤秀雄(さとう・ひでお) スタイリッシュグループ代表
株式会社スタイリッシュハウス 代表取締役
株式会社総合設備 代表取締役
株式会社夢家プロジェクト 代表取締役
NPO法人 スタイリッシュライフ 代表理事
スタイリッシュハウスHP
http://www.stylish-house.com
(佐藤秀雄のブログも掲載)

1967年生まれ。足利市出身。建築設備工事会社。人材派遣会社勤務を経て、28歳で起業。設備工事からスタートし、リフォーム、新築住宅販売へと会社を飛躍的に成長させる。2009年より「夢家プロジェクト」を開始。大手コンサル会社とタイアップし「高品質で低価格な住宅」を提供するプロジェクトをプロデュース。全国63社の建築会社を組織化している。2011年9月に著書「ゼロからはじめる家づくり(あさ出版)」を出版。2012年には世界的コンサルタントの大前研一氏が創立した「一新塾」を卒業。卒業発表では、地域活性化の企画をプレゼンし、「主体的市民賞」と「最優秀理事長賞」をダブルで受賞。2012年12月介護事業に進出。イサービス「スタイリッシュライフ」を立ち上げる。会社理念は「愛してる。」お客様を愛し、仲間を愛し、地域を愛し、仕事を愛しています。

LEARNED FROM THE BOOK - THEORY OF LIFE

written by Hideo Sato

人生は照る日、曇る日、嵐の日の繰り返しだけど、心ある人はいつも変わらない。困った時の友達が本当の友だ。

EPISODE 08

